

【昨年度の取組】

取組 ※「結果・分析・取組シート 4取組」を転記
 ○課題設定にこだわる
 単元で付けたい力や教材の価値観を踏まえ、本時で生徒にどんな課題を与えるのかを考える。(シンプルに、具体的に既習事項を関連)実施の際の生徒の関わり、表情、ノート等、職員で交流し、適切な課題設定であったか多角的に検証する。
 ○全員達成にこだわる
 授業初めに全員達成を求め、最後に評価し、できなければどうするのかを生徒が自分事として捉える。
 ○チーム東中にこだわる。
 授業の課題を日々の会話の中でお互いに出したり、授業者同士が参観したり、課題を話し合ったりする。
 『学び合い』の理念を念頭にいた生徒との関わり、ファシリテートを日々の教育活動の中で大切にす。

取組状況(どう取り組んだか)
 ○年間を通じて、研修には『学び合い』に精通した講師の先生をお招きし、学年の学びをみて頂いた。その中で、形だけの『学び合い』にならないためには、生徒に本当の学力をつけさせる為には、どのような課題設定にすればいいのか、職員間での連携を取ればいいのか、などについても具体的に学び、その後の日々の打ち合わせや、研修においてもお互いに意識して話をしている。
 しかしながら、成果に繋がっていない現状から考え、話をして終わるのではなく、実践し、結果を追い求めていく必要がある。

【校内研究体制の構築・再構築】

※「福山100NEN教育」9th year 基本的な考え方 P4,13,17を参照

研究テーマ
 自ら考え、共に学び深め合う生徒の育成
 ~生徒が主体を持つ協働的な学びを通じて~

研究体制

- 管理職、学年主任、研究主任を
- 中心に、日々の授業の様子・テストの結果・生徒、保護者のつづやきを拾いながら情報交換を細やかに行っている。その情報を元に、研修を組み立て、今の東中に必要な取り組みをタイムリーに行っていく。
- 『学び合い』については県外にも出向き研修を行ったり、講師の方をお招きして、公開授業を行うなどを広い研修を行っている。

研修計画

- 夏休みの研修で学びづくり案を作成し、2学期にその案をもとにした授業公開を行う。
- 年間を通じて、校内研修を全学年で行う事で、授業改善の意識を常に持ち、教師自身の主体性を育成する。
- 環境の整備を常に意識し、生徒と共に安心・安全な場所を作り環境面から生徒の思考・クラス学年の様子を読み取れるようになる

教材研究

教材(単元)の目標を子どもの姿で捉える。
 教材に即したつまずきをイメージする。
 児童生徒観 ↓ 教材観
 指導観 ↓ 単元計画

【取組の結果】

(1) 全国学力学習状況調査

〔生徒質問紙〕(%)

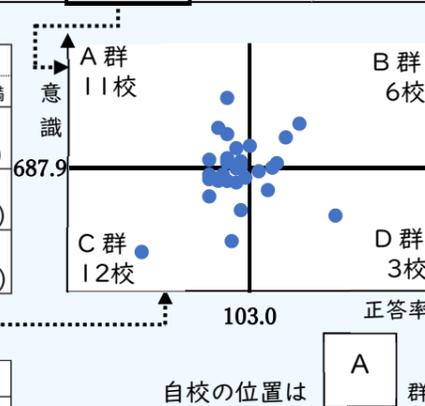
※ 市平均は、後日実施を含む

番号	質問事項(「主体的・対話的で深い学び」に関する項目)	「1」「2」を回答した生徒の割合			
		市	自校現中3生		自校現中2生
			今年度	昨年度(中2時)	
29	1,2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	58.0	60.5	61.1	74.6
30	1,2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	74.5	85.9	87.7	87.8
31	1,2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。	72.7	75.4	83.4	82.4
32	1,2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。	77.6	78.1	76.7	83.3
33	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	81.4	81.6	82.3	87.8
34	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	75.7	72.8	80.5	80.9
35	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると感じていますか。	76.7	74.5	79.9	81.7
36	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると感じていますか。	82.9	77.2		87.0
37	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。	88.5	92.1		98.5
29~37の意識合計		687.9	698.1	551.6	764.0

〔正答率〕(%) ()内…正答率:市平均,無答率/40%未満:国平均

	2022(R4)			2023(R5)			2024(R6)		
	正答率	無答率	40%未満	正答率	無答率	40%未満	正答率	無答率	40%未満
国語	74 (67)	2.3 (4.3)	5.0 (10.2)	65 (66)	5.0 (4.6)	13.0 (10.4)	50 (55)	5.5 (3.9)	27.3 (18.9)
数学	53 (45)	8.3 (10.8)	29.3 (33.7)	44 (45)	11.1 (9.6)	43.4 (32.8)	44 (48)	13.4 (11.3)	46.1 (35.4)
合計平均	127 (112)	5.3 (7.6)	29.3 (22.0)	145 (111)	7.2 (7.1)	39.2 (21.6)	94 (103)	9.45 (7.6)	36.7 (27.2)

理科を除く 英語を除く



〔調査問題〕※ 課題となる問題を選択し、課題と考えられることを記入

	問題番号	要因(何を課題と考えるか)
国語	1(一)	設問で何を問われているのかを理解できていない(言葉の意味が分からない,理解できていない)→その為、文章を読めていない。
数学	1	・「整数」「偶数」「連続する」という用語の理解・イメージができていない ・文字を使うことで、より複雑に考えて表すことができない

(2) 学力の伸びを把握する調査 ※ 学年平均を記入

〔学習方略〕()内は市平均

	柔軟的方略			プランニング方略			作業方略			認知的方略			努力調整方略		
	R4	R5	R6												
1年	—	—	3.5 (3.6)	—	—	3.4 (3.6)	—	—	3.4 (3.6)	—	—	3.8 (3.9)	—	—	3.5 (3.7)
2年	—	3.5 (3.4)	3.6 (3.5)	—	3.4 (3.5)	3.5 (3.4)	—	3.5 (3.5)	3.5 (3.4)	—	3.7 (3.8)	3.8 (3.8)	—	3.7 (3.8)	3.6 (3.4)
3年	3.4 (3.5)	3.3 (3.4)	3.6 (3.6)	3.5 (3.6)	3.3 (3.3)	3.5 (3.5)	3.5 (3.6)	3.3 (3.4)	3.5 (3.6)	3.7 (3.8)	3.7 (3.6)	3.8 (3.8)	3.7 (3.9)	3.5 (3.5)	3.5 (3.4)

〔学力を伸ばした児童の割合〕(%)

	R4→5		R5→6		
	国語	数学	国語	数学	英語
2年	—	—	41.5 (45.9)	81.6 (63.8)	—
3年	55.5 (62.3)	70.9 (63.7)	66.4 (65.1)	47.2 (46.9)	79.4 (67.1)

〔調査問題〕

	問題番号	要因(何を課題と考えるか)
国語	8	言葉がどこで区切れるかを理解していない。「単語」と「文節」という言葉の違いをそもそも理解していない。
数学	3(5)	・「変域」の意味が理解できていない、または定着していない為に無答率が高い。・x軸,y軸のどちらがxでyなのかが一致していない。

【分析】※ 今年度の結果に対する評価及びその要因を記入

評価(結果をどう見たか)
 【全国学力学習状況調査】
 ○質問紙調査
 「主体的・対話的で深い学び」に関する9項目中6項目で市平均を上回った。そのうち、質問29では、市平均を11.4上回った。また、質問37では、市平均を3.6上回り、9割以上という高い割合を示した。一方で、3項目で市平均を下回った。そのうち、質問36では、市平均を5.7下回り、3項目中最も市との差が大きい。
 ○調査問題
 国・数の両教科において、平均正答率市が市平均を下回り、無答率、平均正答率40%未満の割合が、それぞれ市平均を上回った。
 【学力の伸びを把握する調査】
 ○学習方略
 2年生は学習方略の5項目中、昨年度1項目、本年度4項目において、市平均を上回った。1年生は本年度、3年生は一昨年度、昨年度、本年度と、どの項目でもほぼ市平均を下回った。しかし、本年度の変化量は2.3年とも概ね市平均を上回っている。
 ○調査問題
 昨年度から本年度で学力を伸ばした生徒の割合は、2年生数学、3年生国語、数学、英語において、市平均を上回っている。2年生国語は市平均を下回っている。
 一方で、学力レベルは、2年生数学と3年生数学は市平均に達しているが、2年生国語、3年生国語、英語は、市レベルを下回る。
 要因(なぜそのような結果になったか)
 ・国語、数学共に、「語彙」の理解不足により、国語では読み取りができていない、数学では、数学的用語の理解・定着が乏しく問題を理解できなかったことが共通の要因であると考えられる。
 事実、本校で毎朝行う朝読書においても、継続が難しい生徒が多く、「読むことがしんどい」「本が読めない」と言っている生徒が学校全体で増加している。
 ・学習ができるようになりたいと思っているが、基礎学力が低い為、自ら主体的に動き、学習することが困難な生徒が多い。これは、1年生時から言える。ただし、3年生になり自分の進路を考えていく中で、行動し始めている生徒が増えてきている。

【今年度の取組】

※ 分析と仮説に基づき、取組と検証方法を記入

仮説
 教員・生徒が共に、安心・安全に学べる環境を整え、教員は生徒の変化・思いを丁寧に見取り、生徒の実態に合わせた学習活動を行っていくことで、生徒自らが考え、協働的な学びが達成できるであろう。

取組

- 安心・安全な学習の場づくり
 毎日の環境整備を生徒と行う中で、生徒の声に敏感になり、生徒と安心安全なクラス・学年・学校をつくるという意識をつくっていく。
 その中で生徒の変化を敏感に感じ取り、教員一人一人が主体的に、他の教員と連携を取りながら、授業改善に努めていく。
- 確かな学力を求めた授業改善
 授業の1時間の中で、基礎基本の定着を図りたい内容と発展的な内容でじっくり取り組ませたい内容などの課題設定を明確に持ち、授業後には、自分の予想としての授業となったのか?という振り返りを行う。その上で、2学期にはチャレンジ公開授業を全職員が1度は行い、教員の予想と見取りと結果が「=」になっているか、課題設定が適切であったかを、管理職や他の先生方にも意見をもらいながら、日々の授業を振り返り、責任を持って、生徒の力を伸ばしていく。

検証方法

- 生徒・保護者アンケートの『協働的な学び』の項目で、どの項目もそれぞれで80%を超える。
- 国・数・理・英は本年度3学期に行う全国学テのプレテストで、40%未満の平均を福山市の平均より下回る事を目標とし、日々の授業・テストの課題を設定し行う。